

府退教情報

発行日 2025年2月14日(金)
通巻 第84号
発行 大阪府退職教職員連絡協議会
発行責任 青柳 隆
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11
大阪教組気付 TEL06-6762-7999

2/3 学習会の報告 春日キスヨさん講演 80名が参加

100歳まで生きる時代のリスクとは？

2月3日、大阪市社会福祉センターにおいて府退教主催の学習会を行った。講師は広島県高齢社会を良くする女性の会会長の春日キスヨさん、講演タイトルは「100歳まで生きる時代のリスク」、参加者は府退教会員の他、退女教、高齢社会を良くする女性の会大阪など80名に及んだ。長寿社会の課題に対する関心の高さが示されたというべきだろう。

春日さんが高齢者について問題意識を持った原点は、1989(平成元年)年のことだ。「姥捨て病院を見てくれ」と言われ、彼女が病院へ足を運んだことにある。そこには両手両足を縛られ、ベッドに打ち捨てられた患者が100人ほどいた。その患者は春日さんに「奥さん、これほどいてください。」と懇願するが、看護師は言った。「家族が捨てたのだから、くせになります。」そのことがあって、彼女は家族がどんな状況なのか、1軒1軒見て回った。在宅介護の実態を把握するため、聞き取り調査を行った。まだ介護保険のない時代である。

80歳代で変わる意識

昭和の時代に比べ、男女共に長寿化し、さらに長寿期高齢者が増えると、リスクを抱える人が増大する。団塊世代が85歳になる10年後には、85歳以上の人口は1000万人以上になる。平均寿命が延びても健康



「これからの過ごし方に参考になった」との声が多数聞かれた。90分の講演に聞き入る参加者



社会学者としての冷静な分析を語る
春日キスヨさん

平均寿命が延びても健康寿命が延びるわけではない。

70歳代までの元気な間は、「子どもの世話にはならない」「今が人生で一番楽しい」と言う。「倒れた時はどうするのか、誰に世話して貰うつもりか」

と尋ねると、「成り行き任せ」「その時はその時」と答える。

ところが80歳を超えると意識が変わる。「自分でやれる私からやれない私に。大丈夫な私から大丈夫でない私に。自由に気楽がいいから守られたい私に。」と。

70歳を境に女性の生活自立度は低下し、80歳を過ぎると認知症有病率も男性より女性でより上昇する。加齢と共に要介護認定率は大きく上昇する。こうした現実に対し、どうしたらいいのか。

70歳代から老後のことを親子で話し合っておくことが大切である。団塊の世代では、自分の親を見てきた。子どもにはお金をかける。子どもの世話にならないと言う意識が強い。逆に子どもの方は、老親に対するケア責任義務規範が曖昧になってきている。男の子は親を観察できない。看る気がない。看えない。親の変り（認知症になっている）に気づかないし、自分の責任だとは思わない。

長年の習慣が妻を縛る

「おひとり様」は自分が倒れた時どうするかを考える。しかし「おふたり様」は、夫婦間の助けあいがある分、支援呼び込み意思を持ちにくい。80歳以上の女性は、「食事作り」に困り事が増える。体力的に難しい、献立が考えられない、火を使う不安など。男性はどのようにして「俺もいっしょにやろう」と言わないのか。また、男性はヘルパーを受け付けず、「ヘルパーの作った飯より、お前の飯の方がよい。」と妻を縛る。そこには、習慣が持つ力（男は仕事一女は家事・ケア）が働き、夫の世話をすることが夫婦の愛情の証、妻のプライドという意識が働くことになる。

人生を伴走してくれるキーパーソンを

誰もが高齢になり超長寿化する現在、長寿期親世代は「私はどうなるのか、誰を頼ればいいのか」と悩み、世話を期待される中高年子世代は「親はどうするつもりなのか」と不安がる。この悩みや不安を少しでも取り除くには、まだ元気な間に、倒れた時に備え、自分自身で支援の情報を手に入れることだ。施設も自分の目で見ておくのがいい。誰が自分をどう支えてくれるのか、誰に委ねるのかを考えていくのがいい。

そして、今最も大切なことは、世代・年齢を問わず倒れた後、死後までその人の人生に寄り添い、伴走・代行・代弁役を担い・関係を調整するキーパーソンが必要ということである。現在、訪問ヘルパー、ケアマネージャーが不足している。介護の世界はもっとたいへんなことになる。だからこそ、自分自身の依存先を増やし、血縁関係や親族であるか否かは問わず、「つながる」ことを目指してほしい。

私事になるが、3年前胆嚢摘出手術で5日間入院した。退院した時夫は言った。「どうして一日、三度の食事を難無く作れるのか、家のどこに何があるのか、・・・退院して良かった」私は食事を作るのは好きだが、ひょっとしたら作ることの面白さや楽しさを夫から奪っていたのかもしれない。それ以上に老いて生きる力を奪っていたのではないか。

「譲る勇気」はここにも当てはまりそうだ。（文 岩崎 写真 森山）

みずおか俊一参議院議員との対話集会

★2月19日単会代表者会議で ★通常国会をめぐる情勢報告
★次期に向けた決意表明 ★参加者との意見交換